



### 待つ福祉から出向く福祉へ。高齢者福祉行政の転換

# 高齢者あんしんセンター

開設から5年目を迎え、「待つ福祉から出向く福祉へ」を合言葉に、地域に根差した活動を広げている高齢者あんしんセンター。高齢者を支える地域福祉の拠点です。今回は、その現場の様子について、あんしんセンター職員、利用者、民生委員の皆さんをお迎えして、それぞれの立場からお話を伺います。



富岡 賢治市長  
「お年を召した方々が安心して地域社会にしたい」と考え、さまざまな福祉施策を実践



井野 由美さん  
高齢者あんしんセンタールネス二之沢管理者。社会福祉士・介護支援専門員

### 出向いて「安心」を支える 高齢者あんしんセンター

**市長** 全国的に地域包括支援センターという組織があります。高齢者に関する相談などを受け付けているところですが、私は以前からその在り方に疑問を感じていました。地域の高齢者に寄り添うためには、わざわざ事務所に来てもらうのではなく、こちらからお宅に出向いて、その人の生活状況なども把握しながら対応するという姿勢が必要だと思っただけです。そこで私は、これまで市内に9か所あった地域包括支援センターを廃止することにしました。新たな拠点として設置したのが、現在市内に29か所ある「高齢者あんしんセンター」です。センターのマークが描かれた車で、スタッフが高齢者のお宅に出向き、よりきめ細かな対応ができる体制にしました。お年を召した方々が安心して暮らせるような、そんな地域社会を築き上げることが、地方自治の最大の課題だと私は考えているんですよ。今年で5年目となる高齢者あんしんセンターは、寂しさからだと分かったんです。

しんセンターは、お年寄りの安心を支えるために大切な役割を担ってくれています。社会福祉士の資格をお持ちの井野さんと井上千代美さんは、それぞれあんしんセンターの管理者として、ご苦労いただいているんですね。  
**井野** はい。忙しく飛び回っていて、いつも事務所にはおりません(笑)。  
**市長** 訪問はどのように？  
**井上千** 比較的高齢の方がいらっしゃるお宅から様子を伺いに訪問していますね。  
**井野** 相談のあったところを中心に、順次お宅に伺っています。  
**井上千** 他にも民生委員の皆さんやご家族からの相談などがあれば個別にお伺いします。離れて暮らす親族からご相談いただくこともありますね。  
**市長** どんな内容の相談が多いんですね。  
**井野** 病気・けがに関することや、介護保険の申請などです。入院治療後に在宅生活に戻るための相談もありますね。  
**市長** 家族関係や生活に関わること

は、医療機関などではなかなか相談できませんからね。あんしんセンターはそうした部分を受け持っていたいただいていると思いますよ。  
**出向く福祉がもたらす効果  
自然と相談できる場に**  
**市長** 井上(洋子)さんには、地域の相談役の民生委員として大変なご尽力をいただいています。高齢者あんしんセンターの活動についてどう感じていらっしゃいますか。  
**井上洋** はい。大変助かっています。民生委員として月に一度は地域の高齢者宅にお伺いしていますが、訪問する際に、あんしんセンターのスタッフと一緒に伺いますと、お年寄りも安心してくれているんですよ。  
**市長** それはありがたいですね。  
**井上洋** 相談事も密にできますし。やはり、終の棲家の自宅ですと暮らしたいというお年寄りは多いですね。  
**市長** 例えば介護の問題にしても、誰か助けてくれないかと、どこに連れて行けばとか、在宅介護にしたいんだけどか。



井上 洋子さん  
民生委員児童委員協議会副会長、東部地区民生委員児童委員協議会会長

**井上千** そういうご相談もありますね。  
**市長** お年寄りやその家族が抱えている問題を、自分から誰かに相談するというのはなかなか難しいものですよ。だから高齢者あんしんセンターのように「出向く福祉」の姿勢で、皆さんが積極的にそんな状況にあるお年寄りのお宅に訪問してもらいながら、自然と相談できるような形になれば面白いと思うんですよ。  
**あんしんセンターがきっかけで  
広がる地域のツナガリ**  
**市長** 大山さんは、実際にあんしんセンターを利用されたんですね。  
**大山** はい。以前民生委員をしていただくこともあってセンターのことは知っていたんです。身近な人を立て続けに亡くした高齢の親族のことで相談しました。私のところに何度も連絡をくれるようになって、私も混乱してしまつて。地域が違うあんしんセンター同士で連携を取って、親身に対応をいただけて大変ありがたかったです。結果的にその親族がおしゃべりをした



井上 千代美さん  
高齢者あんしんセンター恵峰園管理者。社会福祉士・介護支援専門員



加藤 儀一さん  
あんしんセンター(関越中央)主催の介護予防教室に参加後、地域で体操教室を運営



大山 順子さん  
民生委員や幼児教育に関わった自身の経験を生かして地域福祉に携わる

かったのは寂しさからだと分かったんです。  
**市長** それで話し相手を見つけてあげたんですか。  
**大山** そうなんです。地域で交流できるサロン活動の場のようなところで、やっぱりおしゃべりすることが大事なんだなって実感しました。あんしんセンターのおかげです。  
**市長** それはいい話ですね。そんな交流の場となる体操教室を運営なさっているのが加藤さん。  
**加藤** はい。初めは、あんしんセンター主催の体操教室に参加していたんですが、4か月ほど指導いただいたんですが、終了後、地域で引き続きやってもらえないかという話をいただきました。現在も続けているんです。  
**市長** なるほど。参加状況はいかがですか。  
**加藤** 現在登録者は20人で、毎回14人前後が自主的に参加してくれています。自宅から会場まで歩いて来るのが大変という人はお迎えに行っていますよ。仲間に会えるのが楽しみの一つにもなっているんです。あんしんセン

ターがきっかけで生まれたつながりです。  
**市長** なかなか自主的に参加するのは気持ちが向かないことも多いでしょうが、加藤さんのように上手にリードしてもらえるとありがたいですね。民生委員の皆さんも地域のサロンなど、いろいろと活動してくださっていますね。  
**井上洋** 私の地区では、高齢者のサロンを5か所開いています。昨年からは地域の交流の場として「居場所」づくりを始めました。毎回30人ほどが参加してくれていますよ。  
**大山** 私もこれまでやってきたことが少しでも役に立てばと、地域で高齢者の体操教室をお手伝いしています。  
**市長** あんしんセンターがきっかけをつくり、皆さんがなさっているような活動を通して、地域に広めていってほしいですね。お年寄りが安心して過ごせるようにならなりたいと思います。皆さん、これからもご協力ください。ありがとうございました。  
**一同** ありがとうございます。